2017年12月13日
日本証券新聞

ファンド情報

ドイチェ・アセット・マネジメント
「ドイチェ・ＥＴＦバランス・ファンド（愛称プラチナコア）」 前編

海外ＥＴＦを使い存在感示す「つみたてＮＩＳＡ」向けファンド

ドイチェ・アセット・マネジメント 資産運用研究所所長の藤原延介氏に聞く

「つみたてＮＩＳＡ（少額投資非課税制度）」は2018年１月から始まる新しい非課税制度。毎年40万円の新規購入枠があり積立投資が求められる一方、20年間の非課税期間があり、購入できる商品ラインアップがあらかじめ決まっているといった内容。金融庁は金融行政方針の中で、「長期・積立・分散投資の定着を促していくことは重要」とし、「つみたてＮＩＳＡを幅広く普及させるための取り組みを行っていく」と指摘している。ドイチェ・アセット・マネジメントは、「つみたてＮＩＳＡ」向け商品として「ドイチェ・ＥＴＦバランス・ファンド（愛称プラチナコア）を12月15日に設定、運用を開始する。同ファンドは、同社の社内シンクタンクである資産運用研究所のサポートによって立ち上げられた。資産運用研究所は、日ごろ、投資家の資産形成に資する研究と中立的な情報発信を行っているが、今回は新ファンドの組成にその見識を生かした形で、同社が設定に踏み切ったといえる。同ファンド設計の特徴や強み、さらに「つみたてＮＩＳＡ」の将来性などについて、同研究所所長の藤原延介氏に聞いた。

攻めの「株式」、守りの「債券」に幅広く分散

■「つみたてＮＩＳＡ」参入の経緯

金融庁による「つみたてＮＩＳＡ」向け商品の要件は厳しく、当初から対象ファンドは限られると想定された。アクティブ型では運用開始から５年以上経過していることなどがその要件にあるため、新規設定ファンドでの参入は「指定インデックス投資信託」という指数に連動する商品のカテゴリーに限定される。信託報酬の上限も決まっているため、さまざまな要件を満たしつつコストを抑えるためには、自社でＥＴＦ（上場投信）を持っているか、日本でパッシブ運用のマザーファンドを持っているかが鍵となる。外資系運用会社で参入できるところは少ないだろうと予想される中、当社にはｄｂｘ－トラッカーズという自社ブランドのＥＴＦシリーズがあり、これを活用することで差別化を図れるのではないかと考えた。現時点でつみたてＮＩＳＡ向け商品を提供している外資系運用会社は、当社を含めて４社しかない（指定インデックス投資信託３社、アクティブ型投資信託１社）。

当社は、外資系運用会社として、海外ＥＴＦをうまく活用して他社とは異なる特徴のある「つみたてＮＩＳＡ」向けファンドを提供したいと考え、新ファンドである「ドイチェ・ＥＴＦバランス・ファンド（愛称プラチナコア）」を企画した。

実際、12月６日時点で、「つみたてＮＩＳＡ」向け商品として認可されているファンド（ＥＴＦ除く）は128本あるが、うち113本が指定インデックス型であり、アクティブ型は15本にとどまっている。またアクティブ型の内訳としては、もともと積立投資に注力していた独立系運用会社の商品またはＤＣ（確定拠出年金）からくら替えしてきたファンドなどかなり限られた商品となっている。指定インデックス型の中では、株式ではＴＯＰＩＸや日経平均、債券では野村ＢＰＩ国債、シティ世界国債インデックスにそれぞれ連動する商品が多く、「つみたてＮＩＳＡの対象とする指数一覧」の中で、実際に選択されたインデックスは限定的となっているようだ。後述するように、当社が選択したインデックスはほかとは異なるものであり、商品性で差別化を図ることで、一定の存在感が示せる可能性があると期待している。

■「つみたてＮＩＳＡ」利用の方々へのメッセージ

当ファンドは「つみたてＮＩＳＡ」の商品要件を満たす、長期・積立・分散投資に適したファンドと考えている。攻めの資産である「株式」、守りの資産である「債券」に幅広く分散投資し、両資産の組み合わせによってリスクを抑え、リターンを高めることを目指し、長期の資産成長を阻害しない低コストの商品となっている。また、投資初心者の方にも活用していただきやすいよう、利回りが高くても低格付けのハイ・イールド債券や新興国資産は投資対象から外し、値動きの分かりやすさや安定性も重視した商品設計にしている。

当社資産運用研究所は、日ごろは投資家の資産形成に資する研究と中立的な情報発信を行っているが、今回、一歩踏み出して、投資のすそ野を広げられるような商品提供を目指し、さまざまなアイデアを提案することで、当ファンド立ち上げのサポート役を担った。

■２つの指数を使用、株・債券組み入れは均等が基本

当ファンドには３つのポイントがある。株式50％・債券50％の資産分散、地域の分散、低コストである。この中で重要なポイントとしては、地域の分散の方法である。当ファンドは指数（インデックス）として、株式が日本を含む先進国を投資対象とする「ＭＳＣＩワールド・インデックス」、債券が国債・社債を含む投資適格債券を投資対象とする「ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合インデックス」を使用している。この２つの指数の動きに連動させることを目指したＥＴＦに投資する。具体的な投資対象ＥＴＦは、株式が「ｄｂｘ－トラッカーズ ＭＳＣＩワールド・インデックス ＵＣＩＴＳ ＥＴＦ（ＤＲ）」、債券が「ｄｂｘ－トラッカーズⅡ バークレイズ・グローバル・アグリゲート・ボンドＵＣＩＴＳ ＥＴＦ」である。